

# 富山市定例市長記者会見（令和4年6月2日）

## ■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。

それでは、定例記者会見を始めたいと思います。

お忙しい中、皆さんにはお集まりいただきありがとうございます。

## ■富山市ガラス美術館企画展「コーニング・ガラス美術館共同企画 New Glass Now」の開催について

市長

このたび、ガラス美術館では、来月7月16日（土）から、新たな企画展として、「コーニング・ガラス美術館共同企画 New Glass Now」を開催いたします。

さて、この企画展を開催するに至った経緯でございますが、ご承知のとおり、富山市は、約40年にわたり、ガラスをテーマとした街づくりを進めてまいりました。

そういった中、本市とアメリカのニューヨーク州にございます、ガラスづくりの歴史における非常に優れた資料の所蔵をはじめ、世界最大級のガラスコレクションを誇るコーニング・ガラス美術館は、森雅志前市長の時から、相互に視察や訪問を行うなど、これまで十数年にわたり、相互の結びつきや信頼関係を築いてまいりました。

そのような積み重ねが実を結び、ようやく令和3年4月に、富山市ガラス美術館とコーニング・ガラス美術館との間で、文化プロジェクトに関する相互協力における協定書が取り交わされ、このたびの企画展開催にこぎつけたものでございます。

これまでコーニング・ガラス美術館の所蔵作品が国内で紹介された展覧会としましては、古代から現代までの約 3,500 年のガラスの歴史を紹介した展覧会が、30 年前に横浜美術館で開催されて以来、久しぶりとなるわけです。今回、現代ガラスに特化した形で、コーニング・ガラス美術館が所蔵する作品を国内美術館と共同で企画・開催する展覧会は、初めてであるというふうに伺っております。

本企画展では、コーニング・ガラス美術館で 2019 年に開催された公募展「New Glass Now」において出品された 100 点の内、同館に収蔵された約 50 点の秀逸な作品を展示し、現代ガラス分野における表現の広がりを紹介することとしております。

なお、会期中において、コーニング・ガラス美術館の企画担当者による記念講演会を開催することについて、現在、交渉中であり、決定次第、改めてご案内させていただきます。

また、今回企画展の関連プログラムとして、担当学芸員によるトークイベントや小学生を対象とする対話型鑑賞プログラムなど、さまざまなイベントを開催する予定としております。

本市におきましては、相互の美術館が連携することにより、これまで進めてきた「ガラスの街づくり」を世界に発信できる絶好の機会であると捉えております。

また、市民の方をはじめ多くの方々に、最新のガラスアートの魅力に触れ、浸っていただくことはもとより、現在、創作活動に励むガラス作家や、将来作家を目指して富山ガラス造形研究所で学ぶ学生に大きな刺激を与え、創作意欲を掻き立てる機会になることを期待しています。

コロナ禍をはじめ、先行きの見通せない状況が続いておりますが、本企画展の開催が「ガラスの街とやま」の認知度をさらに高め、シティプロモーションを推進させるとともに、市民のシビックプライドの醸成にも、つながればと思っております。

## ■ 山田地域における地域おこし協力隊員の採用について

市長

山田地域では、水稻をはじめ、リンゴや啓翁桜、馬鈴薯、ソバなどの特色ある農産物が生産されております。農業の盛んなところではありますが、農業従事者の高齢化や離農などによる担い手の減少が進んでおります。今後、生産量の低下や耕作放棄地の拡大などが非常に懸念されております。

このような中、農地の保全のほか、新たな視点・発想を取り入れ、地域住民と連携しながら、地域の持続的な発展を目指すため、令和3年6月10日から「地域おこし協力隊員」を2名公募しておりました。1名の方につきましては、令和3年8月1日から採用しており、このたび、もう1名の方につきましては、令和4年6月1日からの採用を決定いたしましたのでご紹介したいと思います。

採用いたしましたのは、大阪府吹田市在住の山口哲明<sup>やまぐちてつあき</sup>さんです。山口さんにつきましては、大学卒業後、水回り関係の仕事に従事されておられました。今回、中山間地域での暮らしに興味を抱かれ、富山市でも数年間暮らしておられた経験もあることから、富山市地域おこし協力隊員に応募されたとのことでした。

今後、山田地域における営農支援活動をはじめ、農産物直売所「山田の案山子<sup>かかし</sup>」を拠点とした地域の魅力発信、山田地域都市農村交流協議会が進めている「農泊推進事業」の企画調整などに取り組んでいただきたいと思います。

なお、富山市地域おこし協力隊につきましては、平成27年に2名の方々を隊員として山田地域で受け入れております。現在も同地域で営農活動等に従事され、地域の重要な農業の担い手としてご活躍されております。今回、採用した山口さんにおかれましても、中山間地域の持続的な発展に貢献したいとの抱負を語られており、山田地域の活性化にご尽力いただけるものと期待をしております。

本市といたしましては、地域おこし協力隊員制度を活用し、山田地域活性化の担い手となる人材を確保し、地域力の維持・強化を図ってまいりたいと考えております。

## ■報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

次に、新型コロナウイルス感染症に関する取組についてご報告いたします。

本市における接種状況につきましては、お手元の資料のとおりであります。6月1日現在で3回目となる追加接種を受けられた方は、254,595人、全人口に対する接種率は61.5%となりました。

また、先月25日に予防接種法関係省令が改正され、本市でも4回目接種が始まったところであります。

4回目接種の接種券につきましては、3回目接種から5カ月が経過する18歳以上の方全員を対象に順次発送しておりますので、接種券が届きましたら、まず、ご自身が接種の対象となるかご確認いただいたうえで、該当する方は、ご予約のうえ接種を受けていただきたいと思います。

一方で、国では4回目接種の対象者の範囲について引き続き検討を行っていくこととされております。現時点では対象とならない方も、接種券は大切に保管いただきたいと思います。

なお、7月から8月にかけては、4回目接種のピークを迎えることが見込まれておりますので、まだ3回目接種がお済みでない方は、予約の取りやすい6月のうちに、接種をご検討いただきますようお願いいたします。

大型連休が明け、市内の感染者は一時増加しましたが、5月下旬からは減少傾向となっております。

市民の皆様におかれましては、体調不良時は、出勤や登校、外出を控えていただくなど、引き続き、感染防止対策へのご協力をお願いいたします。

私からは、以上であります。

---

## ■ 質疑応答

### 記者

市立小中学校再編に向けた各地域での説明会が 5 月 28 日に終了しました。地域から出た意見や反応について、どのように報告を受けていますか。また市長はどのように受け止めていますか。

教育委員会の管轄ではありますが、市長部局として改めて地域との協議の場を設けるなど、今後どのようなステップを踏んで再編を進めていくのか、考えをお聞かせください。

### 市長

教育委員会からは報告を受けております。4 月 18 日の富山中央地域を皮切りに、先月 28 日までに市内 13 ブロックにおいて「市立小・中学校の再編に関する地域説明会」を開催されたところ、各会場とも多くの市民の皆さん、延べ 1,167 人の方にご参加いただいたと伺っております。また、報道関係の皆さんには、連日、報道していただいたこともあり、市民の皆さんは、この統合に関することを自分事といたしますか、地域のこと、大切なこととして、一方では避けては通れない課題でもあるという認識を持っていただけたのではないかと（考えております）。また、自分の（住んでいる）地域を見直す機会にもなっているのではないかと考えています。

説明会に参加された住民の皆さんや P T A の皆さんから出た意見ではありますが、やはり、地域における学校の存続を求める声が大半を占めたというように報告を受けております。一方で、これは地域性もあると思いますが、児童生徒数が極端に少なくなった一部の地域、特に八尾地域の檜尾小学校のエリアなどはそうではありますが、小学校再編に前向きなご意見もいただいたというように聞いております。

また、各地域に共通したご意見として、校下単位でのより小さな説明会を開催して欲しいとの声や、もう少しメリットやデメリットを具体的にわかりやすく説明して欲しいという意見をたくさんいただいたと聞いております。

私はその報告を受けまして、前回も言いましたが、校下単位の説明会に入っていくときは、より具体的なメリット、デメリットをしっかりと示しながら、例えば、将来の児童生徒数など、その校区でどのような変化が見られるかということも含めて、しっかりと丁寧に説明をしていく必要があるのではないかと感じました。お互いの意思疎通が大事ですので、しっかりと住民の皆さんの同意と言いますか、合意形成を図っていきたいと考えております。

加えて、市といたしましては、一連の再編統合案をお示しし、各地域のブロックでの説明会が終わったわけではありますが、各地域においては唐突感や、すでに決められた感といたしますか、もう決まっているのでは、という声も多く聞かれたと聞いております。

教育長が何回も申し上げているとおり、今、問題提起をいたしまして、スタートラインに立ったところであります。やはり地域の合意形成なしには進められないものと思っておりますので、より小さい校下という単位で、しっかりとした住民との意思疎通、あるいは合意形成を図ってまいりたいと思います。

前回も申し上げましたが、学校は、学校開放による地域住民のスポーツや健康増進の場でもありますし、災害時の避難所にも指定されているなど、小学校としての学びの場、中学校としての学びの場以外に、住民の皆さんにとっては大変大切な地域の拠点施設となっているわけでもありますので、必要に応じて、しっかりと市長部局としても説明していきたいと思っております。

いずれにしても教育委員会としっかりと協調し、丁寧に議論を進めてま

いりたいと思います。

---

記者

（学校再編の）説明会はこれまで教育委員会主体で行われていますが、今後の地域住民に対するより小さな校区への説明会などは、地域振興やまちづくりを担う市長部局も加わって進めていくという認識でよろしいでしょうか。

市長

今のところ、市長部局が行って説明しなければならないということになれば、もちろん市長部局も行って説明していくことになると思っています。ただ、今はまだ、教育委員会が前面に出て、小さな範囲で説明を行っていくということでもあります。

記者

必要に応じて対応していくということでしょうか。

市長

そうです。

---

記者

6月補正予算について、市長にとって就任されてから2回目の6月補正予算ですが、今回、特にどのような点に主軸を置いて編成に取り組みましたか。

市長

国から新型コロナウイルス感染症対策と経済対策の方向性が示されておりますので、それに呼応して（予算編成を進めてまいりました）。県が先般、新型コロナウイルス（感染症対策）と経済対策を発表されましたが、県とも意思の疎通をしながら、市としても感染症防止対策やワクチン接種の推進、経済対策をしっかりと行っていきたいと思っています。

先般、市議会の各会派からも要望を受けましたが、やはり昨今のコロナ禍とウクライナ情勢による原油高、物価高ということに対して、企業や小規模事業者などに対してはしっかり経済対策をして欲しいという要望もあります。一方で、生活困窮していらっしゃる方やひとり親家庭には、しっかりと現金給付、これは国の方針でもございますが、手当をして欲しいと伺っていますので、そのようなことを総合的にご提示できたらと思います。

=====

記者

学校再編に関する質問です。一部の地域では、統合に前向きな意見も出たということですが、こういう計画が出てしまうと、この学校を選ぶ人がより減っていくことに繋がるのではないかという懸念から、早く（協議を）進めて欲しいという意見が複数の地域で聞かれたように記憶しています。

以前、期限は設けないが、逆に引き伸ばすのも良くないということもおっしゃっていましたが、統廃合の可否の決定やその期限など市長として何か考えはありますか。

市長

はっきりと5年（後）、10年（後）ということは言えないわけですが、やはり期が熟すと言いますか、住民の皆さんとの合意形成なされたところから、優先的に着手したいと思っています。

あくまでも、市教育委員会や市当局が計画に則<sup>のつと</sup>って、（期限を決めて）いつまでにやりますということは絶対にありませんので、そこは本当に丁寧<sup>のつと</sup>に合意形成を図ってまいりたいということです。

記者

市長部局としての説明は必要に応じてということですが、説明会の中では地域の衰退を懸念する声が多く出ていたように感じましたし、中には直接的に市長部局からの説明も欲しいという方もいたように思います。（市長部局としての説明の）必要性はどのように判断されますか。具体的に考えがあればお聞かせください。

市長

これから各部局に相談しなければならないのですが、私の考え方としては、1 回目の説明会が終わったわけですから、この校区ではこういう課題があるということをおある程度把握していますので、自治振興会長やPTA 会長の方といった関係者の皆さんと話をしながら進めてまいりたいと（思います）。地域の皆さんと話をすることで、必然的に、防災の方にも来て欲しい、市民生活の関係で体育館の管理について話を聞きたいなど、そのような話も出てくると思いますので、必要に応じて進めていきたいと（思います）。



※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課